

1. 斎藤茂吉 1882年～1953年

歌人、精神科医：大正から昭和にかけ活躍

アララギ派の中心人物；1951年文化勲章、1952年文化功労者

同人：中村憲吉、土屋文明

子供：斎藤茂太、長男、精神科医

北杜夫(本名斎藤宗吉)、次男(1927)、同上、作家。「ドクトルマンボウ航海記」、「楡家の人々」等 芥川賞(1960年)

影響を受けた人々；正岡子規、伊藤佐千夫

愛読書；幸田露伴、森鷗外

1909年観潮楼歌会：

与謝野鉄幹、北原白秋、石川啄木、上田敏 佐々木信綱

1917年 斎藤輝子(昭和後期の旅行家)と結婚

1919年 長崎医大当時、芥川龍之介、菊池寛と知り合う

1921年11月～25年1月：ドイツ留学、輝子も一時合流

終戦時：別居

1937年(S12)以降愛国歌等

1934年から一時、永井ふさ子(1910-1993)と共に

2. 岡井 隆

歌人、詩人、文芸評論家、未来短歌会発行人、日本芸術院会員

塚本邦雄、寺山修司と共に、前衛短歌の三雄

1928年1月～2020年7月、享年92才、慶大医学部卒

斎藤茂吉の後の世代、ドイツ各地で詩・短歌を詠む。両者の時代背景、価値観、詩想などの対比が時代を投影している。

3. 青海島(おおみじま)：長門市仙崎の観光地 角島(つのしま)大橋

数人乗りの小舟の観光船で荒れる海の中海岸線を周遊した。



## 現代詩人など

4. **四元康祐**(よつもとやすすけ) 1959年～  
ドイツ在住の日本語の詩人、欧州展望。 現在日経に「詩探しの旅」連載中
5. **坂井修一**：1957年～  
歌人・情報科学者、東大教授・副学長、短歌結社「かりん」、寺山修司短歌賞  
第11回若山牧水賞  
四元氏の前に日経に「[うたごころ](#)は科学する」を連載。
6. **山崎佳代子**：1956年～日本の詩人、エッセイスト、翻訳家、セルビア文芸協会会員  
セルビアのベオグラード在住

### 宮沢賢治 「[雨ニモマケズ](#)」に関する片岡氏の評：

国民学校(5,6年)時代に学校でこの詩を学習した記憶が鮮明だ。そして“一日ニ玄米四合ト……”とあるのに驚愕した。当時の食糧・物資不足の時代には考えられない贅沢……背景；

① 兵式飯盒：4合②当時の食糧事情は最悪で、遠征で宿に泊まる時は米持参だった③この歌が書かれたのは1931年(S6年)11月3日だったと言われる。因みに満州国建国は1932年2月16日。昭和初期のある意味で日本が存在感を示した時代。

**イーハトーヴの風**：梅津さんが今回紹介した宮沢賢治のイーハトーヴ(p20)に関連して白澤みさきの演歌調の歌の存在を教えてくれた。

(了)